

本号では、平成30年8月吉日付けであった「高規格道路をみんなで考える会」からの公開質問状に対して回答します。今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

質問①:7月7日(土)午前6時の内水状況を撮影した写真を事実と認めますか。

○「高規格道路をみんなで考える会」提供写真



回答①:平成30年7月豪雨では、上流の津山市や奈義町の観測所などで、過去最大の雨量を記録しました。県では、浸水の痕跡調査や聞き取りを行っており、写真を撮られた時点、場所では、写真のような状況であったのだろうと推察しています。

### \* 回答①の補足

期間降水量(7月5日～7月7日) 単位(mm) ※アメダス観測値による統計

市町村名	地点名	7月5日	7月6日	7月7日	期間合計	最大24時間降水量	最大48時間降水量	最大72時間降水量
津山市	津山(ツヤマ)	148.5	188.5	91.0	428.0	○	○	○
奈義町	奈義(ナギ)	138.0	172.5	89.0	399.5	○	○	○
美作市	今岡(イマオカ)	106.5	177.0	87.0	370.5	○		
赤磐市	赤磐(アカイワ)	67.5	146.0	66.5	280.0			

○は観測史上最大を記録したものです。

出典:岡山県「平成30年7月豪雨」災害検証委員会資料(岡山地方気象台)データから一部抜粋

広い範囲で、2～3日間にわたり雨が降り続き記録的な大雨となりました。



岡山県マスコット「ももっち」「うらっち」と仲間たち



質問②:「内水は町道まで」と説明してきたが、「内水が県道まで」きている事実から、従来の道路計画に見落としがあったと認めますか。

回答②: 県が従前から示している内水範囲(美岡だより集P12)は、想定によるものではなく、ポンプによる対策を説明するため、地元への聞き取りをもとにして、平成10年以降の最大の内水による浸水範囲を例示しているにすぎず、道路計画の前提条件や想定によるものではありません。このため、従来の道路計画に見落としがあったとは考えておりません。

質問③:「内水が県道まで」きている事実から、高規格道路「美作岡山道路」を計画通りに建設した場合、県道周辺の民家に浸水被害が及ぶ可能性があることを認めますか。

回答③: 内水による浸水に対しては、現在実施中の測量成果及び今回の豪雨による浸水実績等も踏まえて、今後、美咲町とともに対策を検討し、道路の建設と併せて実施することにより、住民の皆様々の安全を確保したいと考えています。

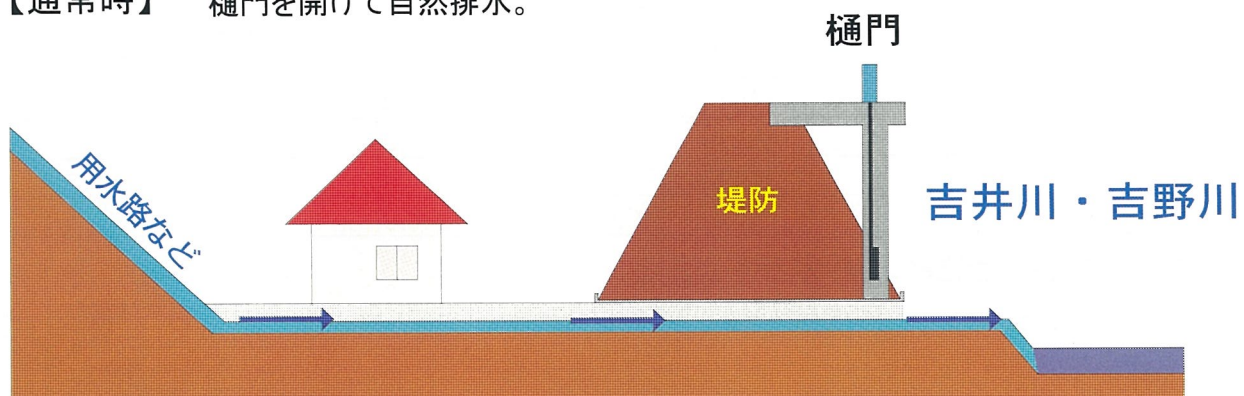
質問④:「過去に経験したことのない豪雨」「生命に危険が及ぶ豪雨」と言った、想定することさえ難しく激しい自然災害が起こる時代に、人為的な「ポンプ排水で浸水を防ぐことができる」と想定することが責任ある道路行政であると考えますか。

回答④: 内水は、通常時は樋門から河川に自然排水していますが、洪水時には河川の水位が高くなり、逆流を防ぐため樋門を閉じる必要があります。このような場合における内水排除は、ポンプによる強制排水が一般的な方法です。  
現在、飯岡地区の皆様々に樋門の操作をご協力いただいているところですが、ポンプの維持管理については、美咲町で責任を持って対応いたします。(※)  
今後、従来考えられなかったような大規模な河川氾濫などの激甚な自然災害の発生リスクも排除はできません。そのような災害に対しては、特に町の発表する避難勧告等の防災情報に基づき、的確に生命を守る行動をとっていただくことが重要です。このため、町とともに地域の皆様のご意見も伺いながら、ソフト対策の検討にも関わり、住民の皆様々の安全を確保していきたいと考えています。  
(※平成27年12月18日付「公開質問状に対する回答」で美咲町が回答。「美岡だより集 P22」)

#### \* 回答④の補足

内水氾濫とは、豪雨により河川(吉井川・吉野川)の水位が上昇し、堤防で守られた内側の自然排水ができなくなり敷地等が浸水する現象です。

【通常時】 樋門を開けて自然排水。





【川の増水・外水位上昇】 吉井川・吉野川の水位が上昇すると、樋門を閉じる。

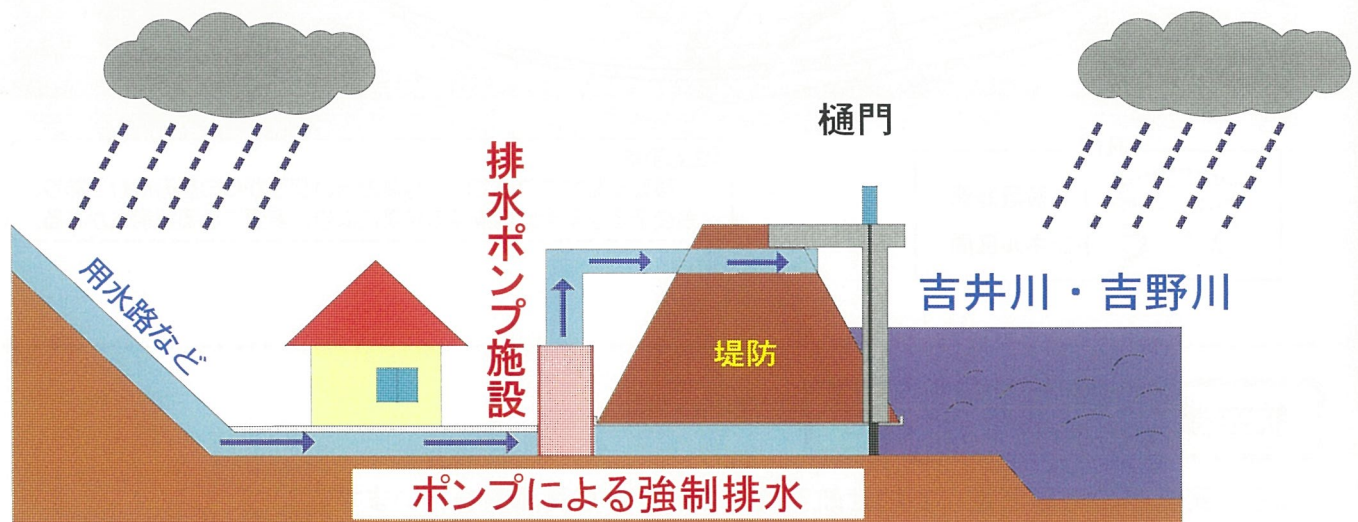


【内水の氾濫】 用水路などから排水が出来なくなり、内水が氾濫。



対策

【内水対策後】 内水は、排水ポンプ施設により、強制的に吉井川・吉野川へ排水する。



\* 上記は排水対策のイメージ図です。「美岡だより」集P2, 3を参照



質問⑤:私たちは、「住民の生命や暮らしに危険性が及ぶ公共工事」はするべきではないと考えますが「住民の生命や暮らしに危険性が及んでも現ルートに固執」するなら、その理由は何ですか。

回答⑤:現ルートは、「経済性」や「施工性」、「安全性」などを総合的に検討したうえで計画したものであり、「危険性」が及ぶルートとは考えておりません。  
 なお、内水による浸水対策については、質問③への回答のとおり、的確に対応してまいります。

質問⑥:現在、岡山県が現在提示しているルートは「岡山県が考える最適ルート案」であり、最適の根拠は「経済性」と「施工性」と説明してきましたが、「経済性」と「施工性」にこだわらなければ他の最適ルートも考えられるわけです。  
 この度「住民の安全性」を考慮せざるを得ない事実が生じたのですから、「住民の安全性」を考慮して「最適ルート案」を再考する必要があると考えるがどうか。

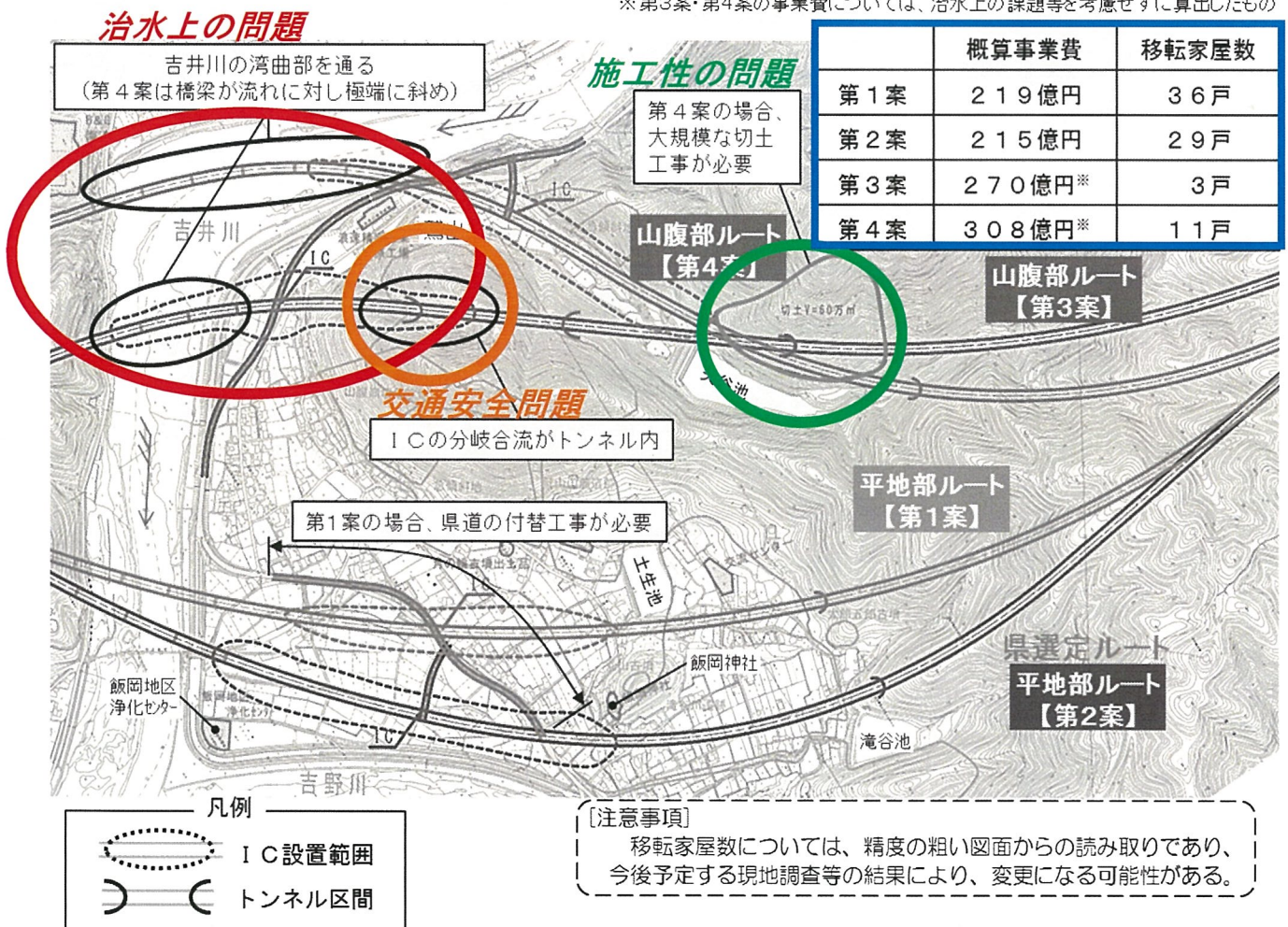
回答⑥:現ルートは、「経済性」や「施工性」、「安全性」などを総合的に検討したうえで計画したものです。  
 ご懸念の内水による浸水対策については、質問③への回答のとおり、的確に対応する考えであり、「再考する必要性が生じた」とは考えておりません。

**\* 回答⑥の補足(美岡だより3号より抜粋)**

**経済性の問題**

※第3案・第4案の事業費については、治水上の課題等を考慮せずに算出したもの

	概算事業費	移転家屋数
第1案	219億円	36戸
第2案	215億円	29戸
第3案	270億円*	3戸
第4案	308億円*	11戸



**航空機による測量のお知らせ**

現在、実施中の地形測量にあわせ航空機による空中写真測量を行います。  
 このため、10月中頃から11月末までの間で、小型飛行機が約1600m上空を通過する予定ですのでお知らせします。